



「習慣」の素晴らしさ

校長 永井 有司

明けまして、おめでとうございます。新春の候、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

皆様は、平成最後の年末・年始をどのように過ごされたでしょうか。私の子ども時代は、「明治・大正・昭和」を生きている人が珍しくありませんでした。子ども心に「3つの時代を生きるなんてすごいなあ」と尊敬の眼差しで見ていることを覚えています。当時、まさか自分が3つの時代にまたがって生きる人になるとは思いもせずに……。5月の新元号を迎える時には、3つの時代を生きている人の方がはるかに多いので意識は薄いかも知れませんが、「昭和・平成・新元号」を生き、時代を見つめてきた人物に相応しい存在となっていかなければいけないのでしょうか。よい意味で気持ちを新たにさせられましたし、子どもたちにも、時代の移り変わりを感じ取ったり、歴史の中を生きているという意識をもったりする機会になってほしいと思います。

さて2学期の終業式時に、子どもたちに「新年の目標を立てましょう」と宿題を出しました。「○○ができるようになりたい」「○○を完成させたい」という達成目標を掲げる場合もあるでしょう。しかし私は、「○○を毎日続けて実行する」というような継続目標を立てています。小さなことですから、実行するのは簡単ですが、毎日欠かさず続けるとなると意外と強い意志が必要となってくるものです。

去年は、3学期の始業式時に子どもたちの前で「毎日、必ず読書をするという目標を立てました」と宣言しました。「子どもたちの前で宣言した以上は、達成できなかつたら恥ずかしい」という意地もあってか、毎日読書を続けました。すっかり忘れていて夜寝る前に布団の中からゴソゴソと起き出して読んだこともありました。意志の弱さを露呈してか、継続することを苦痛に感じたこともありました。ただ不思議に、毎日続けていると段々と習慣化してきて読書が普通のことになり、ついには読まないという気持ちがスッキリしないという状況になりました。考えてみれば、平成28年は「毎日日記をつける」、平成29年は「毎日一万歩以上歩く」という目標を立てましたが、この2つも今は習慣となり、読書と合わせた3項目を1年間1日も欠かさずに実行することができました。改めて『習慣』というものは素晴らしいなあと思わされます。今年の目標は「毎日、『体操』をする」です。柔軟体操や筋肉体操を1日5分目安に続けようと思い、元日から挑戦しています。健康でなければ続けられないので、日々の生活や食事にも注意を払う必要がありますが、始業式で子どもたちに宣言した手前(?)何とか続けていきたいと思っています。子どもたちと共に励まし合いつつ目標達成に向かって努力していきたいものです。ご家庭でもお子さんの目標設定や実現のためにご協力をお願いいたします。



信じることの重要さ

12月5日(水)は、宮原青年クラブの方の紹介で、フィンランド公認のサンタクロースが来校し、1、2年生と交流をしました。大興奮だった子どもたち。私自身もウキウキしながら校長室で応対していましたが、ふと児童文学者、松岡享子さんの『サンタクロースの部屋』という作品の中の一節を思い出しました。



——子どもたちは遅かれ早かれ、サンタクロースが誰なのかを知る。(中略)しかし、幼い日に、心からサンタクロースの存在を信じることは、その人の中に、信じるという能力を養う。私たちは、サンタクロースその人の重要さのためでなく、サンタクロースが子どもたちの心の中に働きかけて生み出すこの能力をもっと大事にしなければならない——

「信じるという能力」という言葉が強く心に残りました。とても大切なものだと思います。人をだますようなことも横行していますので、正しく見極めることも必要ですが、子どもたちが「信じる」ということを自分の『力』の一つとして歩むことができるよう働きかけていきたいと思っています。